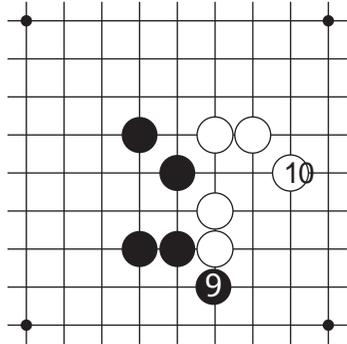
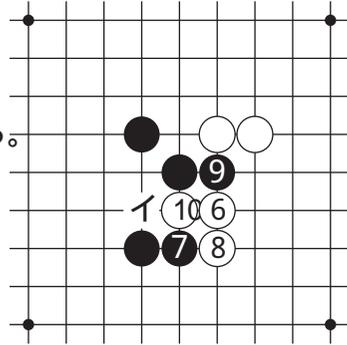


名月後手策集

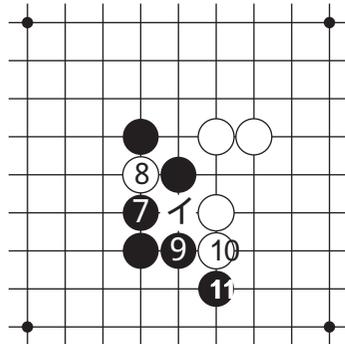
第2章 1節の1

この7では1章ほど簡単ではないが白が有利になる。やはりイ7と打つべき。次は9の下止め



第2章 1節の2

この10で白勝ち。次は7 9の正着



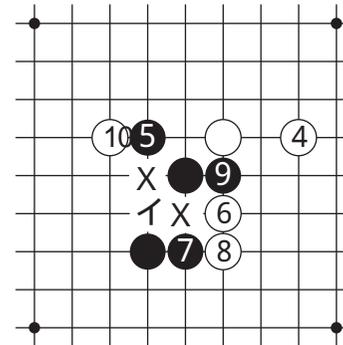
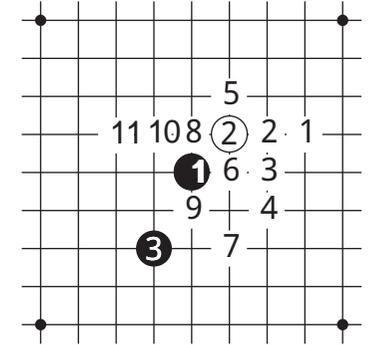
第2章 1節の3

11までで黒勝ち。10がイの変化は第1章と共通する。次は6の防ぎ2

4

目録図

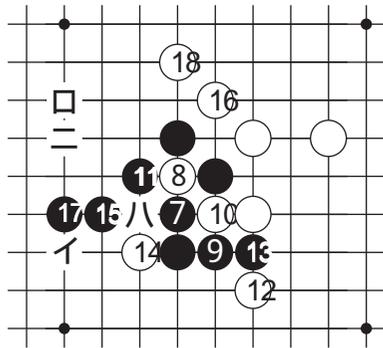
白の着手1カ所。
次は白の防ぎ1



第1章 その1

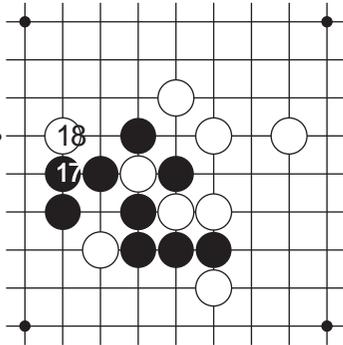
10でX点2重禁。7が悪い。イ7と打つべき。次は7 9の正着

1

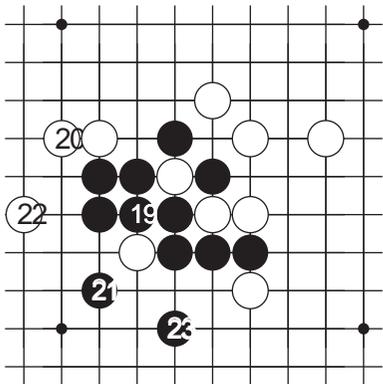


第1章 その2
 17はイロハニのフクミ手。
 白18がノリ手になっている。
 17はミセ手を打つところ。
 また17で13に引けば簡明。
 この10の変化図は第2章にも
 共通する。
 次は17でミセ手

第1章 その3
 白18上めでも追い勝ち。
 次は追い勝ち順

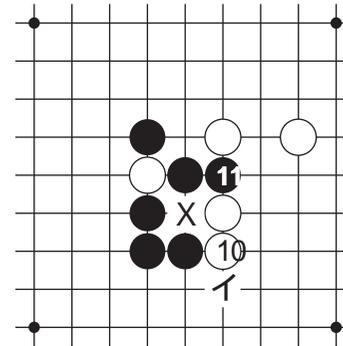
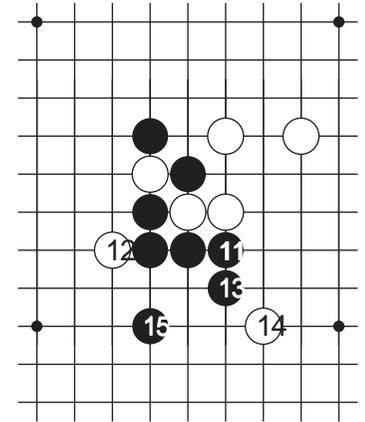


第1章 その4
 2が発見できれば簡単。
 2がどこでも勝ちがある。
 次は11の正着



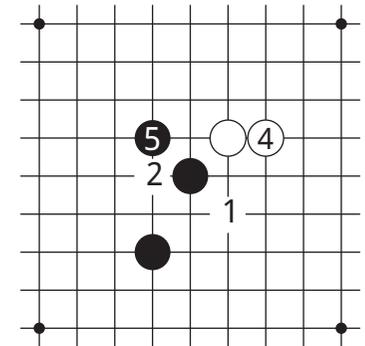
2

第1章 その5
 白10にはこの手順が簡明。
 次は10の変化



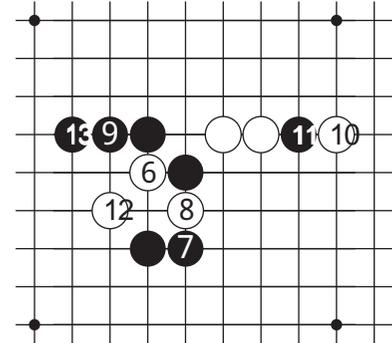
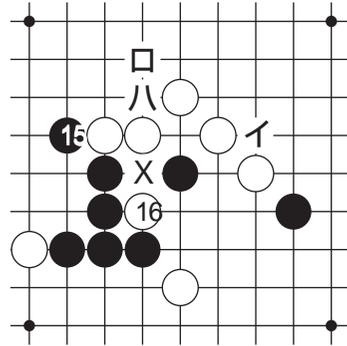
第1章 その6
 あわてて中止めは三三禁。
 イと先手をとれば良い。
 次は4の防ぎ2

第2章 目録
 この4にも5が定石。
 6止めを2カ所。
 次は6の防ぎ1

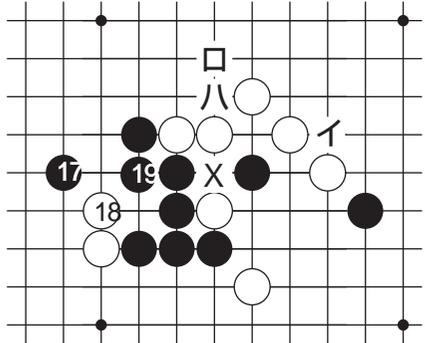


3

第3章 1節の3
この16はイロハで禁手をねらっている。
次の17は妙手か？

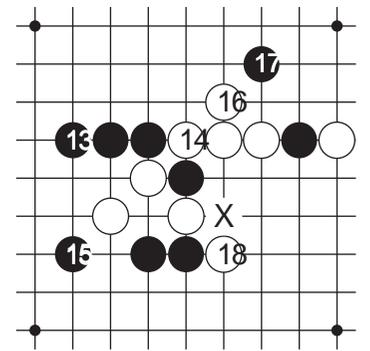


第2章 2節の1 途中図
7は危険な手。
13は悪手。
11左に止めるべき。
次は白勝ち図

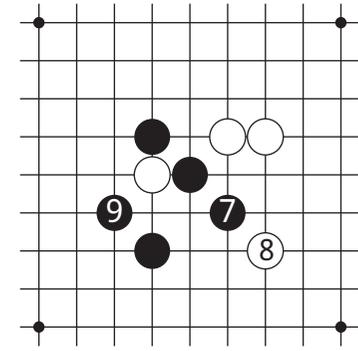
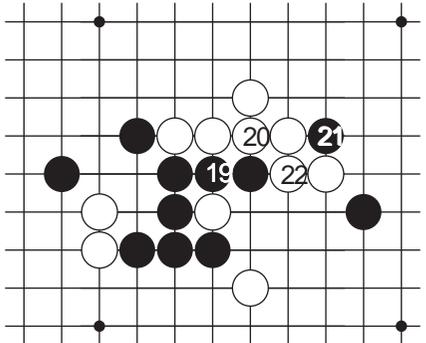


第3章 1節の4
X点を長連禁で逃げる妙手
と言われていたが
19と打つとイロハでX点が
四四禁になる。
次は19の別法

第2章 2節の1 続き
X点は白からは四三。
黒からは三三禁。
13は15に打つべき。
次は7の正着



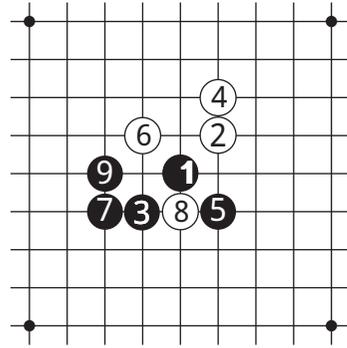
第3章 1節の5
22まで白勝ち。
22で他は黒勝ちになる。
次は18の変化



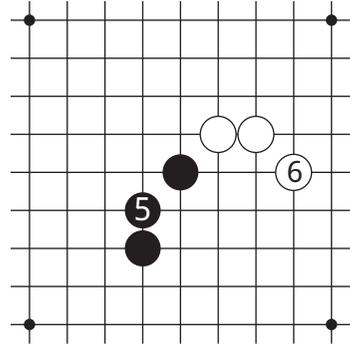
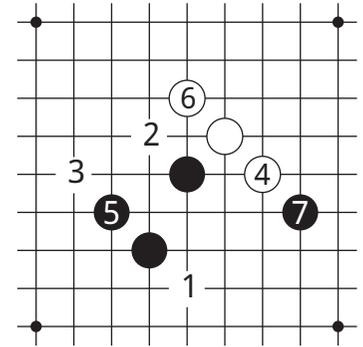
第2章 2節の2
あとの変化は柏木定石
第2図参照。
次は参考図

第2章 参考図

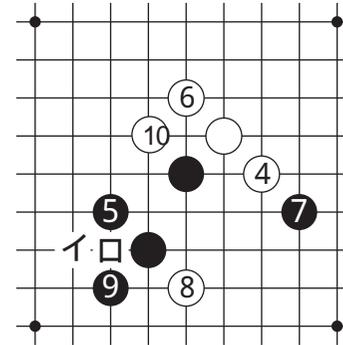
斜月の4はハメ手。
5は定石で6止めには
7 9で名月同型。
次は5の変化



第3章 目録
8の防ぎ3カ所。
次は8の防ぎ1



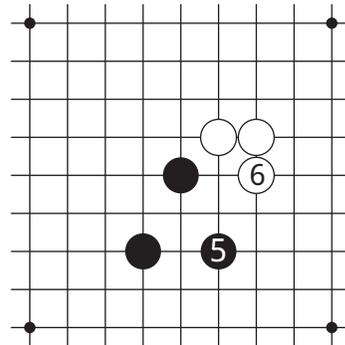
第2章 3節
この5には6で白必勝。
この図は斜月と同型。
次も5の変化



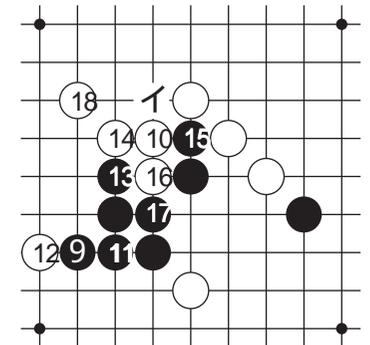
第3章 1節の1
10で白有利。
9はイか口が良い。
次は9がイの変化

第2章 4節

この5も6で白必勝。
次は4の防ぎ3



第3章 1節の2
18がノリ手で白勝ち。
17はイで極力防ぐところ。
13が悪い。
次は15の左止め

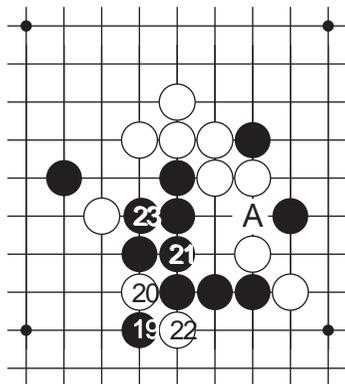


第3章2節の8

23後A。

「連珠世界」2008年12月号にこの19からの追い勝ちが掲載されている。

次は8の防ぎ3



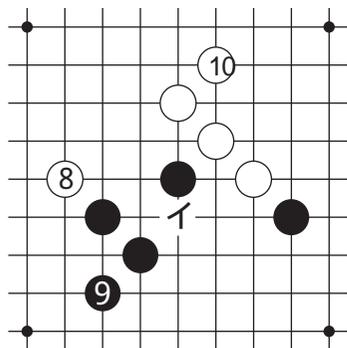
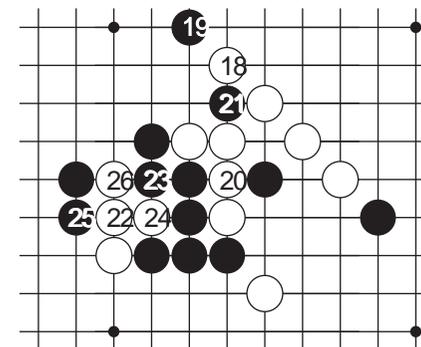
第3章1節の6

25のミセが悪い。

26がノリ手で白勝ち。

26 25と打てば良い。

次は13の正着



第3章3節の1

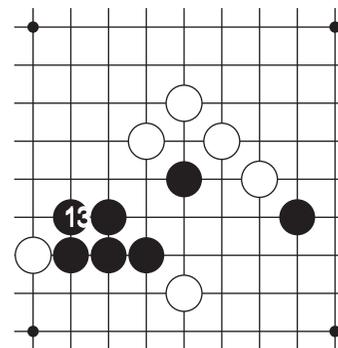
白必勝形。

8は弱防だが黒が誤ると一挙に白勝ちになる。

名月の特質。

9はイが良い。

次は9の別法



第3章1節の7

この13で黒必勝。

五三三禁手ルールでは白勝ちの時代もあった。

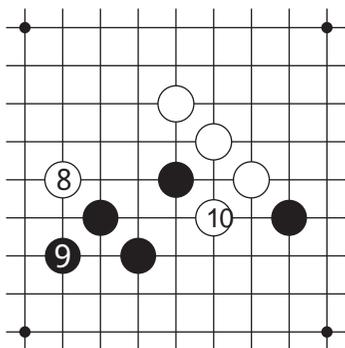
大道詰め連珠では五三三禁手もあるので手をださないほうが無難。

次は8の防ぎ2

第3章3節の2

この10最強防で黒苦戦といわれていたが。

次は黒の失敗図



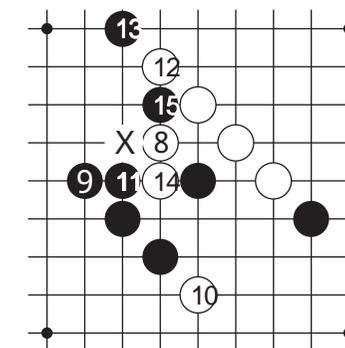
第3章2節の1

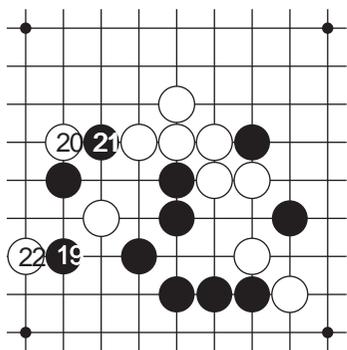
x点が三三禁。

9は10に引くと追い詰め。

手順は「斉藤本のあれこれ」を探る 名月」を参照。

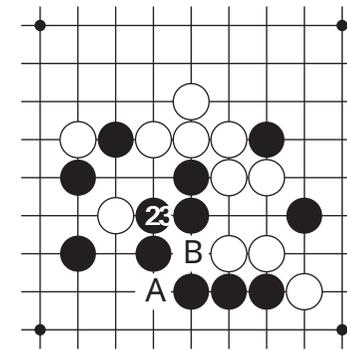
次は「斉藤本のあれこれ」



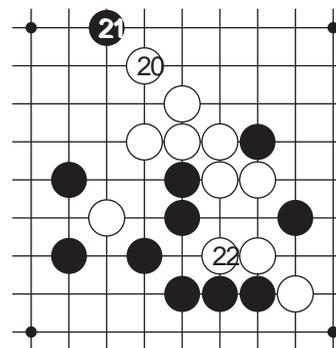
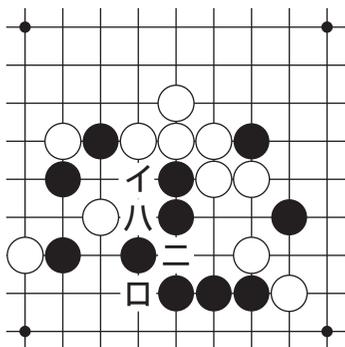


第3章2節の2
19はミセ手。
防ぐところは4カ所あるが
単純に止めたのでは面白くない。
20とのばしてから22が後手策。
四四禁とノリ手がある。
次は黒勝ち図

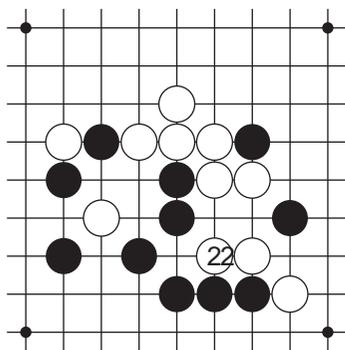
第3章2節の5
23後AまたはB。
ノリ手で防ぎながら
黒勝ちになる。
次は白の別法



第3章2節の3
イロハニの四追い4回。
実戦であわてないように。
次は22の変化

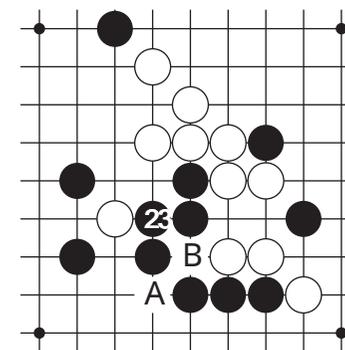


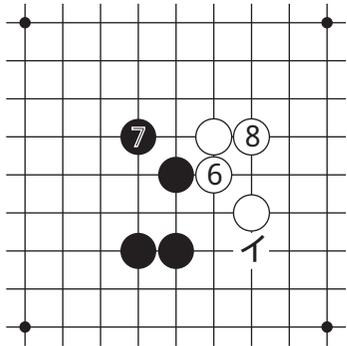
第3章2節の6
これも良き後手策である。
四追い勝ちに出ると失敗する。
次は黒の正着



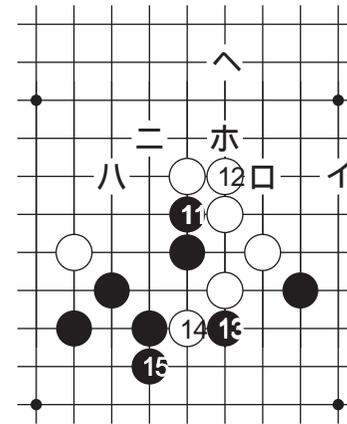
第3章2節の4
この22はフクミ手。
止めているようでは勝てない。
次は黒の正着

第3章2節の7
2節の5と同じ。
23後AまたはB。
次は19の別法



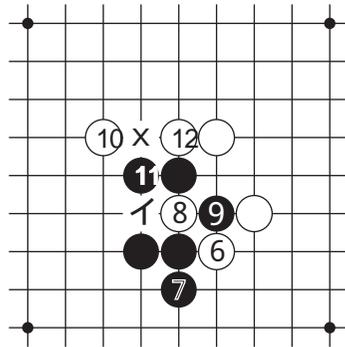


第4章2節
7は悪手。
8で白有利。
7はイから追い詰める。
次は6の防ぎ3

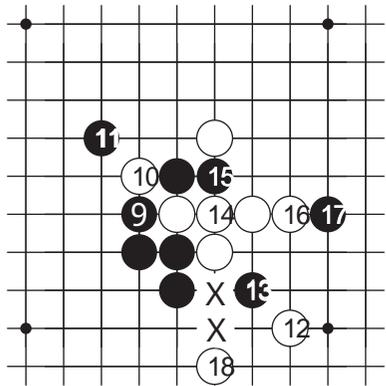
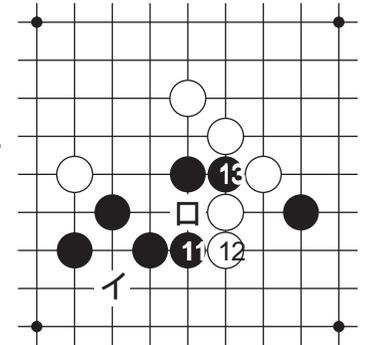


第3章3節の3
15まで打つと白の四追い。
イロハニホへがある。
次は黒の反撃

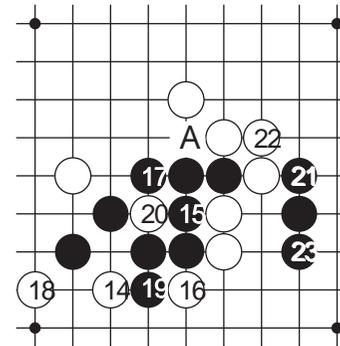
第4章3節 7の悪手
7は悪手。イが正着。
X点三三禁。
次は9の外止め



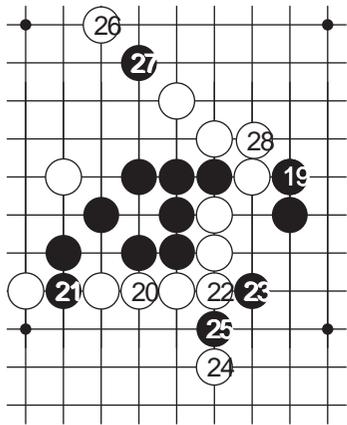
第3章3節の4
13に白の防ぎはイか口。
白口にはイとミせる。
次は白イの防ぎ



第4章3節外止め
18で2重禁。
次は7の正着

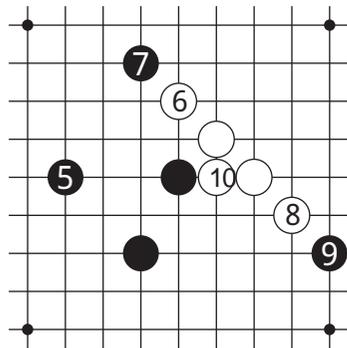
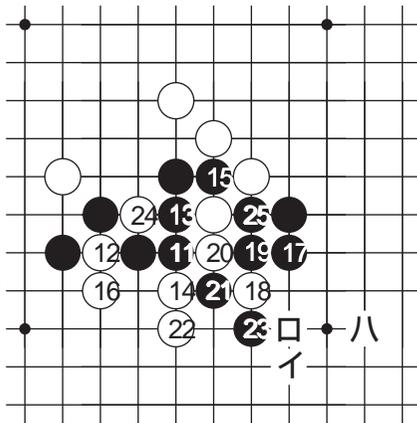


第3章3節の5
23後Aで黒勝ちになる。
次は19でミセ手だと



第3章3節の6
28手で防ぐと白有利。
19では前図のように
20に入るべき。
次は12の中止め

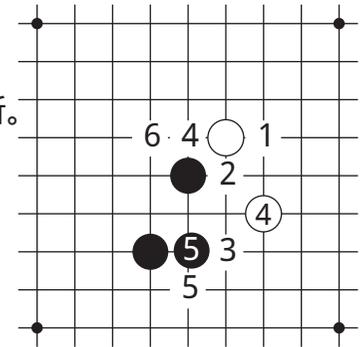
第3章3節の7
3節の4では右止め
だったが白12で中止
めをしても黒勝ち。
定石は変化している。
次は8の防ぎ2



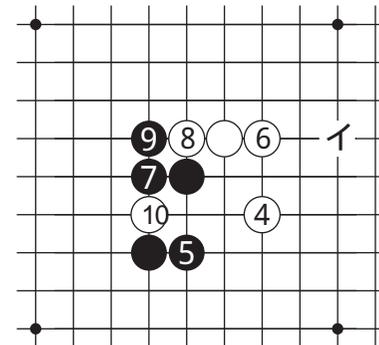
第3章その2
5が慣手で7の反対止め。
8とのばしてから10で
黒は動きにくい。
次は4の防ぎ4

14

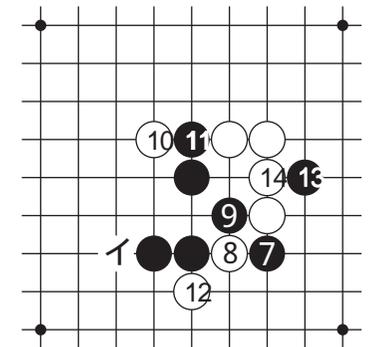
第4章目録
黒5は定石。
6の防ぎ6カ所。
次は6の防ぎ1



第4章1節その1
白勝ちになる。
白は臨機にイの四ノビを
して三三禁にする。
7が悪い。
次は7の変化

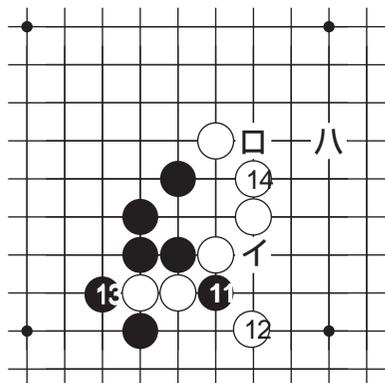
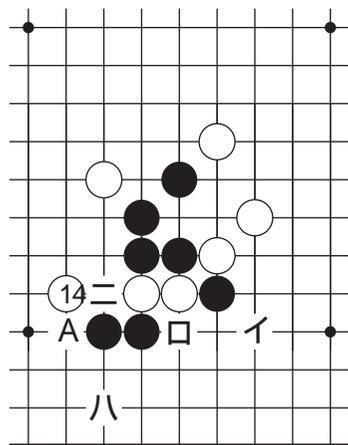


第4章1節その2
14手で難局。
7 9の順は感心しない。
7の正着は1後イ。
次は6の防ぎ2



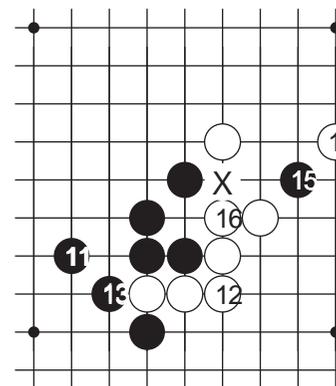
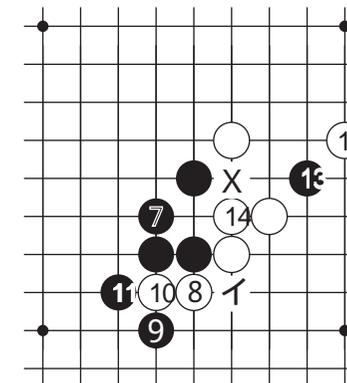
15

第4章3節7と13正着の八
14止めも急所だが
イ口八二後A。
次は12の反対



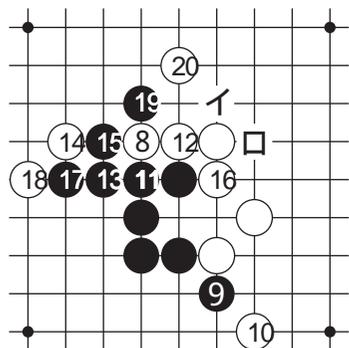
第4章3節7の正着-5
この12も良き後手策である。
13などと安心していても
14がイ口八のフクミになる。
次は8の変化

第4章3節 7の正着-1
7は正着だが11が悪い。
11はイに引くところ。
次も11の別法



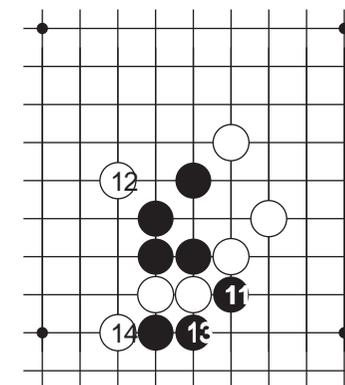
第4章3節 7の正着-2
X点三三禁になる。
11は12に引く他はない。
次は11の正着

第4章3節7の正着-6
20までで白勝ちと言わ
れていたが黒勝ちになる。
次は黒勝ち図



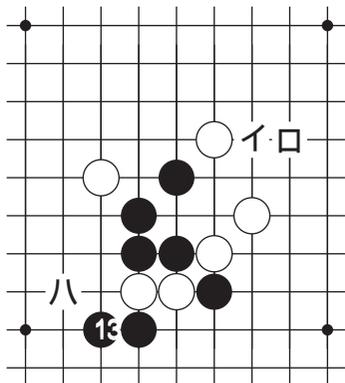
20

第4章3節 7の正着-3
11は正着だが13が悪い。
13は14に打つところ。
白も14以外だと黒勝ちになる。
次は13の正着

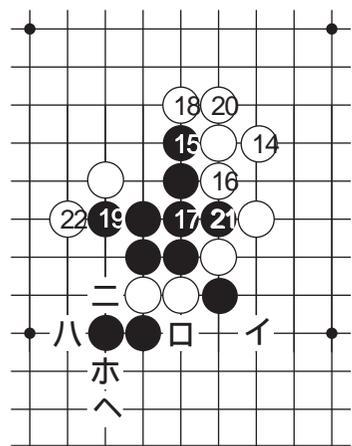
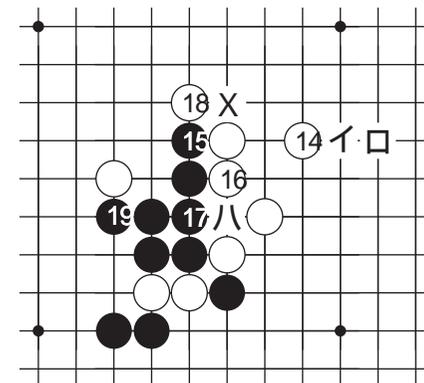


17

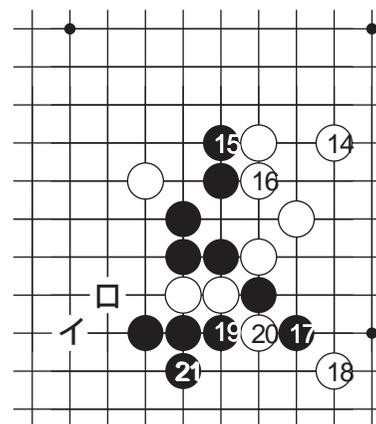
第4章3節7と13の正着目録
 14が3カ所。
 次は14がイの防ぎ



第4章3節7と13正着の口
 イ口ハでX点三三禁。
 17が悪い。
 前図と違って16は追い手
 ではない。
 17では追い詰めにする。
 次は17の正着

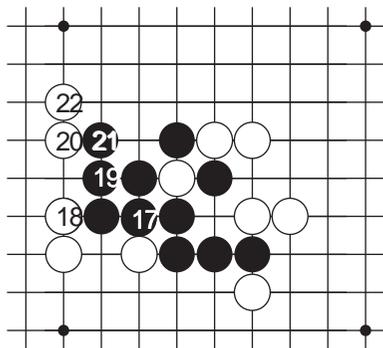


第4章3節7と13正着のイ
 14のミセ手を黒15
 16は四追いフクミだが
 17 19 21とノリ手で防ぐ。
 2後イ口ハニホへの四追い。
 次図と混同しないように。
 次は14が口の防ぎ

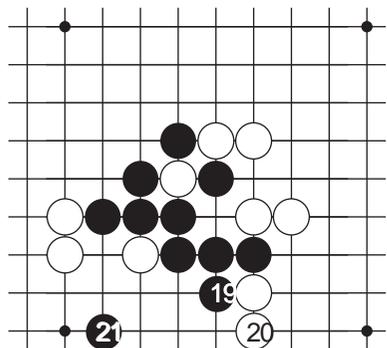
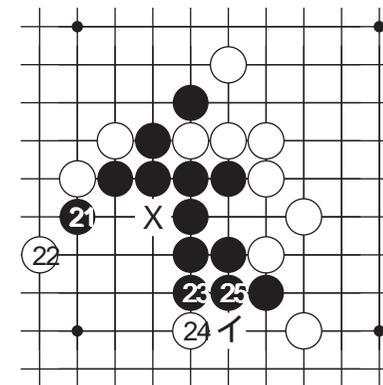


第4章3節17の追い詰め
 2後イ口。
 14の一路違いに注意。
 次は14の防ぎハ

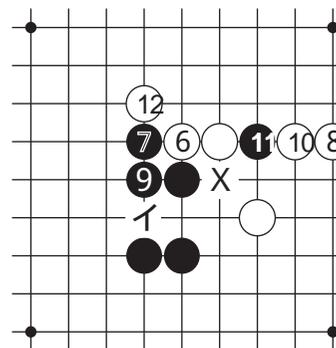
第4章4節その9
22がノリ手。
17で18ととべば黒勝ち。
次は19の別法



第4章3節7の正着-7
2を打つとX点が三三禁の
ため25が否禁になる。
さらに前図のイロに対し
ノリ手防ぎになっている。
25後イでX点が棒四になる。
禁手をめぐる手順は見事。
次は6の防ぎ4

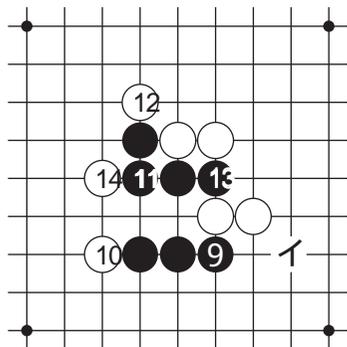


第4章4節その10
四四勝ちルールの勝ち方。
次は9の正着

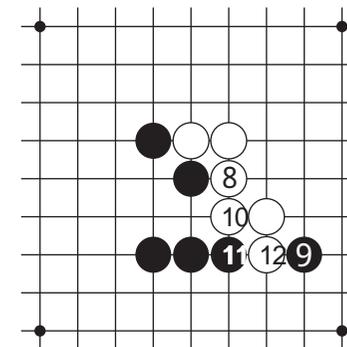


4章4節その1
12までX点三三禁。
7は正着。
8の防ぎは面白い。
9はイにひけば黒勝ち。
他に打つのは悪いようである。
次は8の変化

第4章4節その11
13が悪い。
イ14と打つところ。
次は13の正着

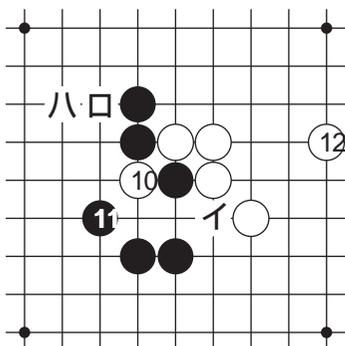
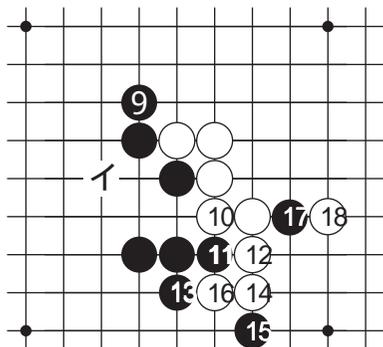


第4章4節その2
12まで後手有利。
8と引くのは強い。
9が悪い。
9は反対に止めるべき。
次は9の正着



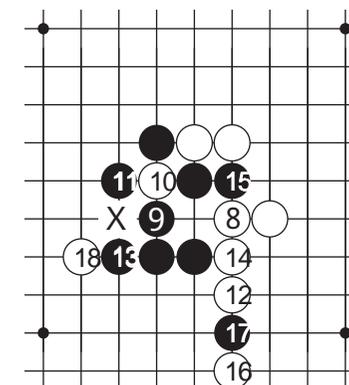
第4章4節その3

18まで白勝ち。
13が悪い。イに引く一手。
次は10の変化



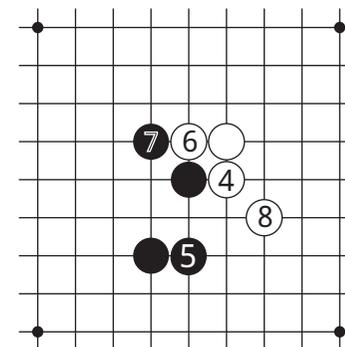
第4章4節その4

10と入るのは強い。
1からイロハと追い詰め
の定石だが11と打つ人もいる。
この場合12と脅すのが効果
的である。
次は10の正着



第4章4節その6

4と8を逆に打つのも良い。
次は8の変化

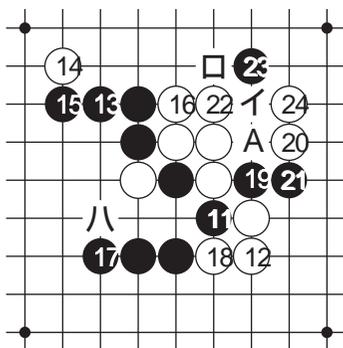


第4章4節その7

X点三三禁。
13は14以下追い詰め。
次は13の正着

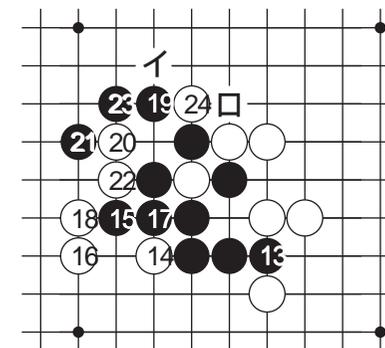
第4章4節その5

24後Aまたはイ口。
17は八に打つところ。
このフクミが打ち難い。
16が反対止めるときは
17に打つのが定石なので
取り違えた一局。
次図は同一図



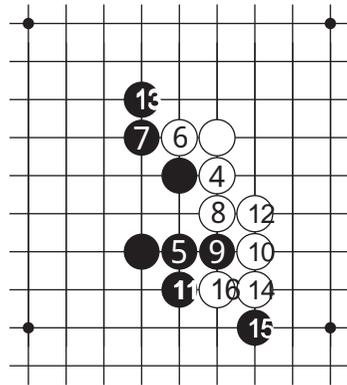
第4章4節その8

19でイまたは口の両ミセ
のつもりが24がノリ手。
19が問題か？
次も19の失敗図

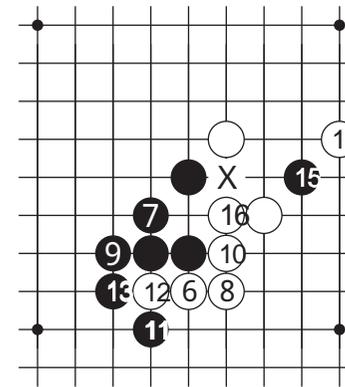
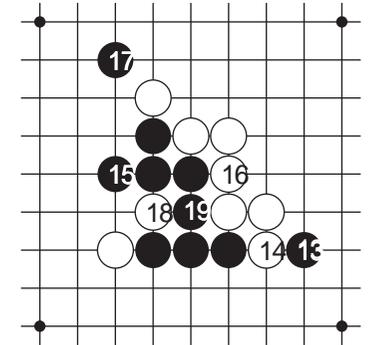


第6章

1が悪い。
 13または12に打つところ。
 10が反対のときこの1で良い。
 第4章4節その3と同一図。
 8を12と引くと
 4章4節その2と同型。
 次は4の防ぎ7



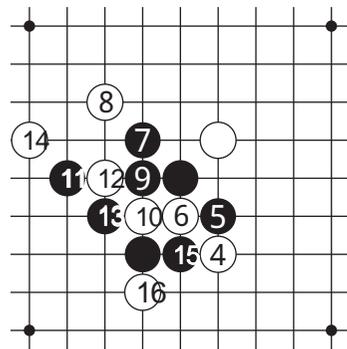
第4章4節その12
 19まで黒勝ち。
 15を16は苦戦になる。
 次は6の防ぎ5



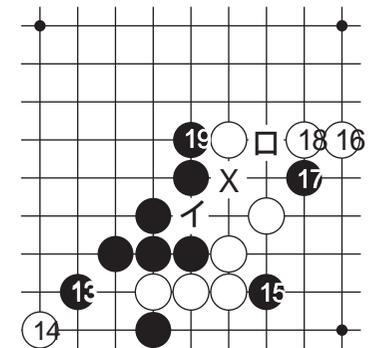
第4章5節その1
 X点三三禁。
 9が悪い。
 10または12に引けば簡単。
 8を10は4章3節と同じ。
 8を12も一策である。
 次は13の別法

第7章 その1

16まで黒苦戦。
 15は素人の打つ手。
 次は15の正着

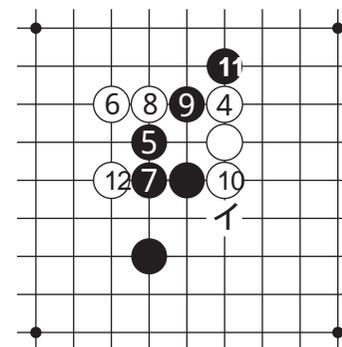
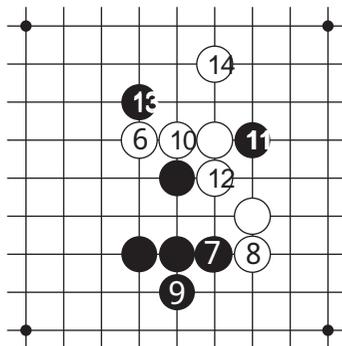


第4章5節その2
 13 15とスカシ止め。
 現行ルールではイが
 四四禁なのでX点が
 禁手にならない。
 16では口にミセ手で
 追い詰めがある。
 次は6の防ぎ6



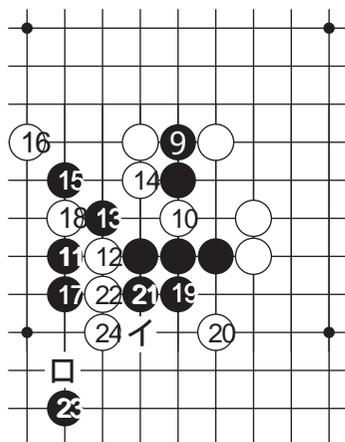
第4章6節その1

9が悪い。
8が反対のときは9と打つ。
この8には10と入るべき。
次は9の正着



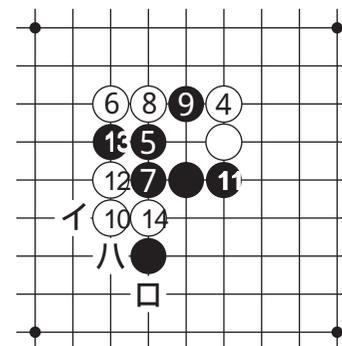
第5章の2

12まで黒やや苦しい。
11が悪い。
11はイと止めるところ。
次は10の変化



第4章6節その2

イまたは口に24はノリ手。
23が口も24でノリ手になる。
23が悪い。
イ後四追いにすること。
次は4の防ぎ5

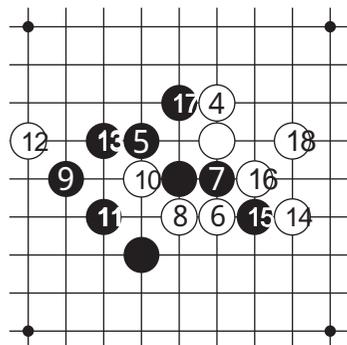


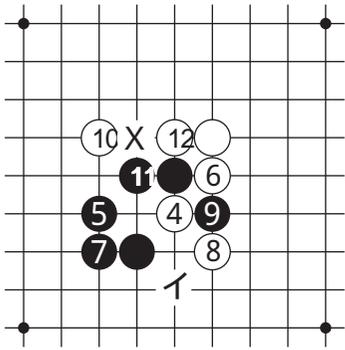
第5章の3

14まで白有利。
11が悪い。
イ口八と追い詰めにする。
次は4の防ぎ6

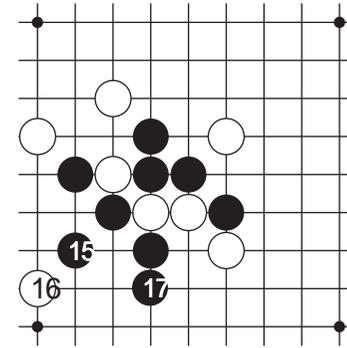
第5章の1

18以下白勝ち。
13が悪い。
13は15に打つこと。
次は6の変化



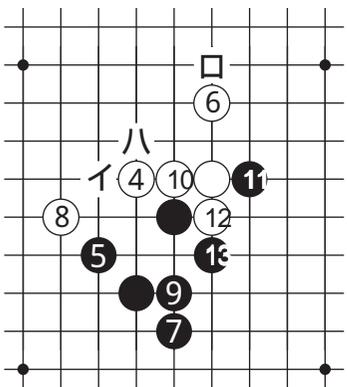
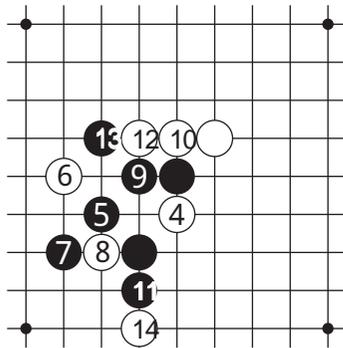


第9章 その1
 X点三三禁。
 「希有のハメ手」という。
 ぜひ覚えておかねばならぬ。
 7が悪くイ8と打つところ。
 次は6の変化



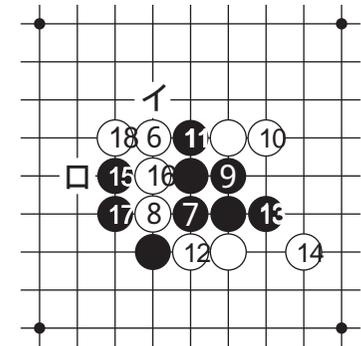
第7章 その2
 17はフクミ手。
 15でいきなり17も良い。
 次は6の変化

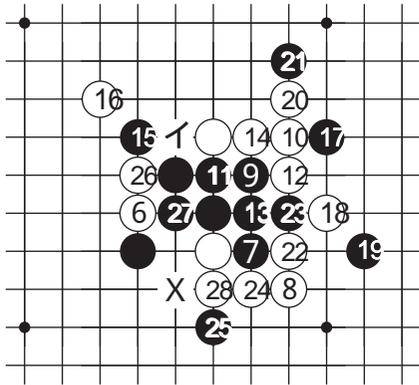
第9章 その2
 14で黒の難形。
 6は強防。
 13は不用意すぎる。
 13は14にノビてから
 止めるところ。
 次は4の防ぎ10



第10章 その1
 13とミセ手を打ったところ
 白からイロハで逆転する。
 7は反対にひいて追い詰め。
 次は6の変化

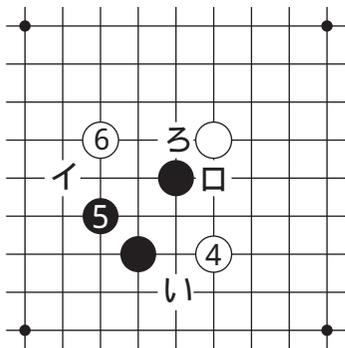
第7章 その3
 18で混戦形。
 15が悪くイロで勝ち。
 次も6の変化





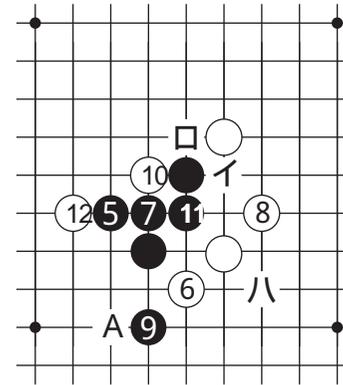
第7章 その4

28までX点三三禁。
 6と残月絹篩に戻した強手。
 15がイはすぐ三三禁。
 7は反対に引いて組み立てる
 次は5の別法



第7章 その5

6は面白い後手策。
 イ口(いろ)と打つ以外
 の手はほとんど禁手になる。
 次は6の変化

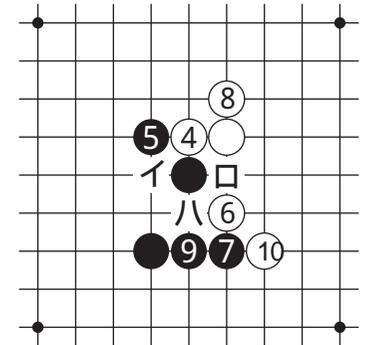


第7章 その6

この6も強防。
 8 10が強く 12で黒苦戦に見える。
 13からイ口には夏止めにする。
 13をAで黒有利になる。
 なお7が9は白八で白有利。
 次は4の防ぎ8

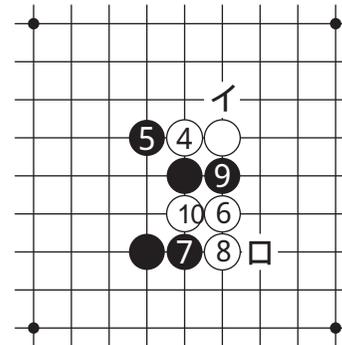
第8章 その1

10まで白有利。7が悪い。
 4 dは微弱な手でイ口八
 の順で追い勝ちがある。
 7を誤れば8 10で逆転。
 白も10を反対だと黒勝ち。
 次は7の別法

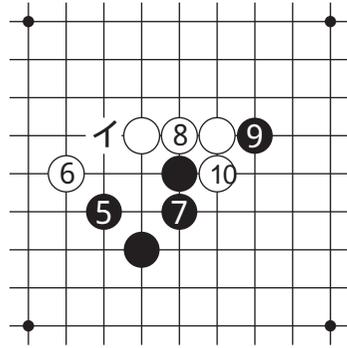


第8章 その2

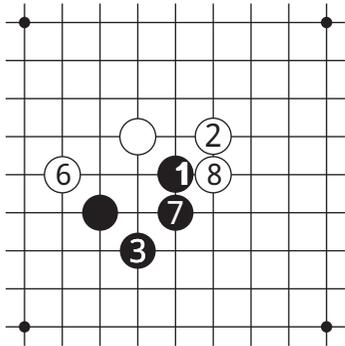
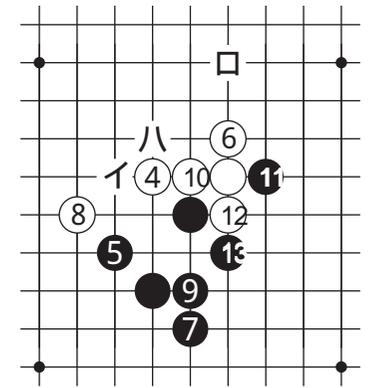
10まで白の好形。
 この7も悪い。
 前図のように白はイ口と打つ
 手もあるが、譜のように8 10
 とするのが的確な白の好形。
 次は4の防ぎ9



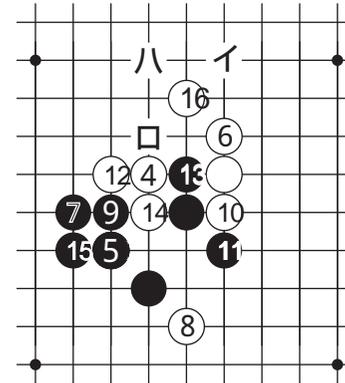
第10章 その11
手拍子の9が悪い。
9は静かにイが良い。
次は8の別法



第10章 その2
前項と一路違うだけ。
やはり7 9が無理。
次は7の正着

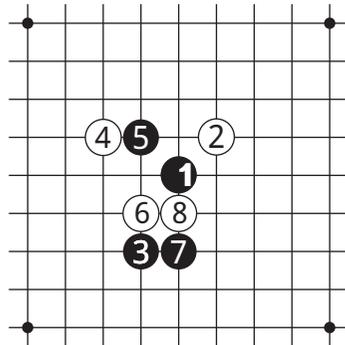


第10章 その12
この8も強防。
黒の勝ち方は
柏木定石第62図参照。
次は4の防ぎ11

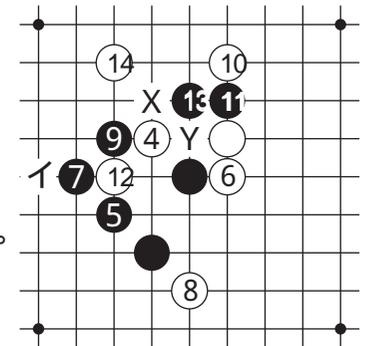


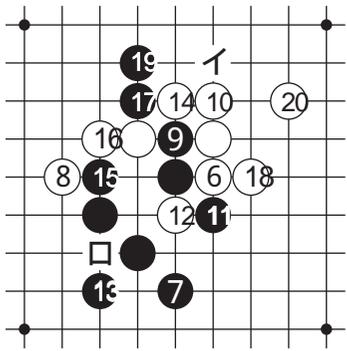
第10章 その3
16まで白勝ちの形。
16はイロハの四追いを
フクム夏止め。
16は口でもよい。
13が悪い。
14このびてから13に入る。
次は6の変化

第1章
8強防まで。
7はちょっと打ちたい
ところだが8で良くない。
7は8に打つところ。
後手策集終わり



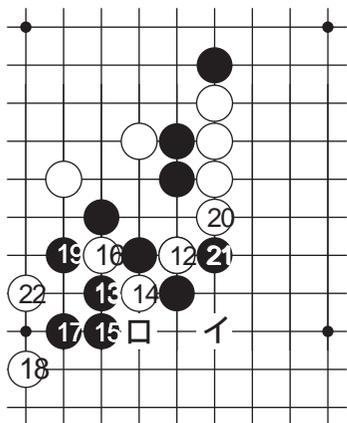
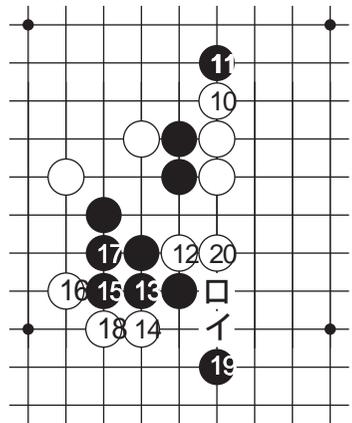
第10章 その4
16までX Yの2重禁。
1が悪い外止めにする。
9の組み立ては変則。
9はイが最良。
ただし7は下に引くのが定石。
次は7の正着





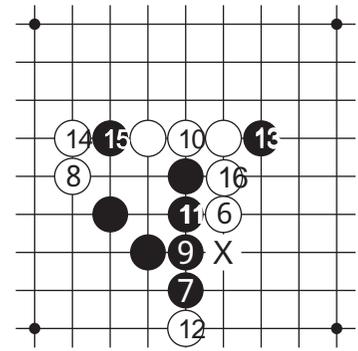
第10章 その5
 20まで白勝ちの形。
 13が口でも同じ。
 11はイに打つのが定石。
 次は11の正着

第10章 その6
 19後イ口を白20で止まる。
 遠因は13にある。
 13は15とひらくところ。
 13正着に白14で黒13では
 同じなので16とトブこと。
 次は13の正着

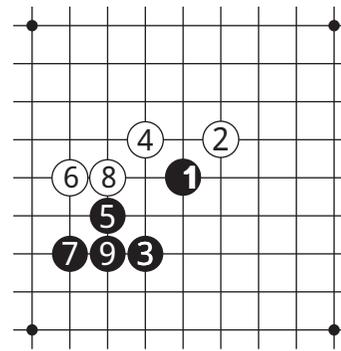


第10章 その7
 22までで黒のイ口は
 四三三になる。
 19は22と打つところ。
 柏木定石五十六図参照。
 次は6の変化

第10章 その8
 X点三三禁。
 11と無用の四ノビが原因。
 次は詰め連珠「都鳥」



詰め連珠「都鳥」
 10よりの追い詰め。
 「聯珠」125号
 次は詰め手順



「都鳥」解答
 X点三三禁。
 イは四三三ではない。
 Y点が四三三禁である。
 前図では9が悪い。
 9は12より追い詰めになる。
 7はYに打つところ。
 次は7の正着

